

阪神南地区社会教育委員協議会 研修会の発表内容（案）

テーマ：「学校地域連携促進事業」の取り組みについて（発表者：古藪委員）

発表内容の構成

- 1 学校地域連携促進事業の目的など
- 2 平成22年度・23年度の取り組み状況について
- 3 事業の成果について
- 4 今後の課題について
- 5 他市と意見交換

具体的な内容

1 学校地域連携促進事業の目的など

芦屋市では、兵庫県からの2年間の委託事業として、平成22年度から実施しています。

事業の目的としては、学校・家庭・地域が子どもの育成に係る教育目標や課題を共有し、効率的な学校支援活動を促進すること。また、地域が主体的に学校運営に参画し、地域に支えられる学校の在り方について実践研究を行うこととしています。

この事業のねらいは、家庭・地域が力を合わせて学校を支援する中で、三者の連携強化を図り、学校を核とする安心安全の街づくりをすること。

学校は地域の力を借りてより良い教育環境を作り、家庭・地域は、学校に足を運ぶことで、学校の情報をより多く得ることができ、さらに自分が活躍する場を得ること。子どもが、家庭・地域の方が学校を支援する姿を見て、自分たちがたくさんの方々大切に見守られていることに気づき、将来地域で活躍できる大人に育っていく素地ができること。それに向けて現在取り組んでいます。

2 平成22年度・23年度の取り組み状況について

芦屋市では、芦屋市立精道小学校をモデル校として、事業を展開しております。「すまいるネット」という名称は、この事業の愛称名です。

すまいるネットの幹事会は、教育委員やPTA役員、コミスク役員、民生児童委員、福祉推進委員会代表等で構成される精道小学校の「開かれた学校推進委員会」を母体として運営しており、すまいるネットの事業についての相談・報告を受け、客観的な意見や評価をする役割をしています。

事務局は、教育委員会生涯学習課が行っており、すまいるネットのコーディネーターとしては、精道小学校児童の保護者で教育委員も勤めておられる方と元精道小学校教頭の2名で行っております。

平成22年度の主な取り組みとしては、

- ・運動会の前日準備・後片付けの手伝い（ボランティア約70名参加）
- ・精道小学校地域連携促進協議会総会の開催
（総会参加者は、学校評議委員5名、学校関係者2名、ボランティア・地域団体28名）
- ・ボランティアによる図書室の開室
（12月13日～20日の開室、約30名参加）
- ・すまいるネット通信の発行
（11月、2月）

平成23年度の主な取り組みとしては、

- ・学校支援ボランティアの組織化
学校側に支援内容を聞き取り、図書・園芸・環境の3分野に重点をおき支援を実施。
図書ボランティア・・・本の修繕廃棄、図書室の開室、環境整備等
園芸ボランティア・・・花の手入れ、草抜き、苗の植え替え等
環境ボランティア・・・校内清掃の手伝い等
- ・精道小学校地域連携促進協議会総会の開催（予定）
- ・すまいるネット通信の発行
（7月、今後も学期に1回発行の予定）

3 事業の成果について

- ・運動会の準備・片付けや図書室の開室、本の修繕廃棄等の手伝いなどの機会を通じ、新しい支援者に参加してもらえ、学校をより身近に感じてもらえた。
- ・総会の開催やすまいるネット通信の発行により、様々な支援者や地域団体の意見を聞くことができ、学校・家庭・地域連携への共通認識を持つことが出来た。
- ・子どもたちも、親が学校に足を運んでいることに対して嬉しさや安心感を持つことができた。
- ・地域団体においても、学校内部で様々な地域団体関係者やPTA関係者

と共に活動することで、新しい意見交換の場となり、また学校運営に関しても一歩踏み込んだ関係を構築することが出来た。

・学校側から見た意見・感想

・地域側から見た意見・感想

4 今後の課題について

- ・事業継続に向けた組織の在り方やコーディネーターの確保について
委託事業の終了及び市の財政的な措置も見込めない中で、事業継続していくために、どのような形で引き継いでいけるかを模索。

5 他市と意見交換

以上